

弦楽アンサンブル

弦楽アンサンブルは、その名のとおり、弦楽アンサンブルの楽しさに惹かれて集まった有志によるサークルです。弦楽アンサンブルが誕生したのは昭和50年頃と言われており、発足以来初心者から上級者まで、いろいろなメンバーが和気藹々と活動しています。メンバーは、庁内の職員の他、庁外からも多く集まっています。

アンサンブルの魅力についてメンバーに聞いたところ、「各パートの旋律が重なり合って1つの曲を作っていくのが面白い」と語っていました。いろいろなバックグラウンドを持つメンバーが、いろいろな楽器を奏でながら音と音とを有機的につなげていき、この世で一つのしかない「音楽」を創り上げていくことが、アンサンブルの魅力なのでしょう。

毎週水曜日の夜に活動

弦楽アンサンブルでは、毎週水曜日の夜に、地下1階の洋室に集まり合奏を楽しんでいます。

演奏する曲は自由で、サークルが所有している譜面の中から曲を選んで演奏したり、メンバーがいろいろな曲を持ち寄りたりしています。モーツァルトやヘンデルなどのクラシックから映画音楽、ミュージカル音楽、ポップスに至るまで、演奏するジャンルは幅広いです。

合奏を始めた最初のうちは、演奏が多少つまずくこともあります。細かいことはあまり気にせず、少しずつ音楽を創っていきます。演奏を繰り返していくうちに合奏がまとまりはじめ、不思議なことに、最終的にはそれなりの「音楽」ができあがっています。合奏を進めて行く過程でどんどん音楽がまとまっていくのを体感できること、そして、メンバーと一つの音楽を創り上げたときにちょっとした達成感を得られることが、アンサンブルの楽しいところ

でもあります。

通常の活動のほかに、コンサートに向けた練習や懇親会も行っています。また、かつては親睦を深めるため、合宿を行うこともありました。ペンションに泊まり、昼間は練習そっちのけで観光、テニスに興じ、夜は飲みながら合奏大会をするなど、楽しい思い出です。

毎年1回のコンサート

弦楽アンサンブルでは、サークル発足当初から、新人歓迎会や文化体育祭などのイベントに参加しています（手元にある資料の中では、1979年の特許庁文化祭に参加した記録が残っていました）。文化体育祭での演奏を年に1回の定期演奏会と位置づけ、毎年夏ぐらいからコンサートに向けて準備を始め、毎年11～12月にコンサートを開催しています。コンサートでも、クラシックから映画音楽、ミュージカル音楽、ポップスまで、いろいろなジャンルの曲を幅広く取り上げています。コンサートにはメンバーの他、メンバーの友人や家族がエキストラ出演することもあります。

また、コンサートではそれぞれの力量に応じた曲





で、ソリストにチャレンジすることもよくあります。もちろんなかなかうまく弾けない部分もあるのですが、そこは皆で支え合って乗り越えていきます。そのようなところもアンサンブルの良さといえるでしょう。

以前は、コンサートを地下1階にあった多目的室で開催していました。その後、庁舎改修のため、多目的室が閉鎖されたことに伴い、コンサートを第二食堂で開催したこともありました。さらにその後、新型コロナウイルスが発生してからは、近年はコンサートを録画配信する形にしています。新型コロナウイルスの状況を見ながら、今年は、庁内でのコンサート再開に向けて検討したいと考えています。

おわりに

「幅広い世代の演奏者がいて、また、ご家族で参加されている方もいて、とてもアットホームで和やかな雰囲気」と、メンバーが弦楽アンサンブルの印



象を話していますが、庁内外から集まることに加え、それこそ親子くらいの年齢差があっても、世代を超えて和気藹々と一緒に演奏するというのは長く続けられる趣味ならではのことでしょう。弦楽器は、初心者にはやや難しそうなイメージをもたれがちですが、入庁してからヴァイオリンを始めて、教室に通っている人もいますし、楽器初心者の方でも楽しく活動できるように、経験者によるサポート体制を整えています。

テレワークの推進に伴い、対面で同僚と話をする機会が減っていますし、一緒に趣味の時間を楽しんだり、雑談を交えて気分転換をはかったりするチャンスも少なくなっています。弦楽アンサンブルのメンバーになると、部署や年次を跨いだ人脈形成にも役立ちますので、興味のある方は、仕事帰りにちょっと練習風景を覗きにきていただけたら幸いです。

弦楽アンサンブルでは、毎週水曜日の定時後に、地下1階の洋室で活動しています。弦楽器に興味のある方、弦楽合奏を楽しみたいという方は、ぜひ気軽にお越しください。



弦楽アンサンブル
2020 コンサート



弦楽アンサンブル
2021 コンサート

連絡先 審査第一分析診断 高松 大